



# みなみの風

坂下南小学校  
学校だより  
NO. 200  
R8. 1. 13  
(文責:校長 菅家 篤)

ドリーム&チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~

## 「躰」と「教育」の違い ~おうちの方へのお願い~

昨年12月に実施した学校評価アンケートへのご協力、有り難うございました。いただいたご意見の中に、思いやりや道徳観念について家庭への指導を求める内容がありました。そこで、そのことに関わる話を少しさせていただきます。



「躰」という字は、身を美しくすると書きます。「挨拶や返事をする」「言葉遣いに気を付ける」「物を丁寧に使う」「後片付けをする」「脱いだ履物をそろえる」など、「躰」は子どもが人として、社会で生きていく上でのルールやマナーを身に付けさせる親としての行為です。

「躰」という文字は、日本で作られた文字(国字)です。きちんと躰けられた人は、所作だけではなく考え方も美しいと感じます。

一方「教育」とは、知識や技術を教え、人としての資質・能力を育み、望ましい姿に育てる営みのことを言います。「学校教育」や「社会教育」など、対象や目的によって変わることから、その意味は広くとらえられます。

この「躰」と「教育」は、似ているようで違います。「躰」は、その結果として、どの子どもも同じような姿(礼儀やマナーの態度)になるのに対し、「教育」では、一人一人の個性を伸ばしていくことで、それぞれが多様な将来の姿に行き着くというように、必ずしも同じ姿にはなりません。

学校教育の場である学校は「教育」をしています。そして、学校が子ども達の人格形成や集団育成の場であることから「躰」に近い「教育」もしています。生活指導として、挨拶などの「基本的な生活習慣」や「公正・公平な態度」などを教えていますし、道徳科の授業にもそうしたことを学ぶ内容があります。

しかし、家庭での「躰」が不十分だと、学校の「教育」の効果は半減します。

周りの大人が同じ価値観で導かないと、子どもはすぐに楽で安易な方に流されていくからです。

学校では、集団規範や礼儀作法について指導を続けていきますが、あいさつをはじめとした礼儀やマナー、他者への思いやりなど、ベースとなる家庭での「躰」があってこそ「教育」です。

家庭と学校が手を携えて、子どもたちの未来について同じ方向を見ながら価値観を共有して育てていくことができると考えています。これからもお子様の健やかな成長のために、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## おかげさまで 200号

学校だよりの発行が、昨年度から通算200号を迎えました。保護者の皆様に「子ども達の姿を伝えたい」、「校長の考えや思いを伝えたい」という気持ちでこれまで発行してきました。元メジャーリーガーのイチロー選手が、「あえて目標の数字を挙げるなら200ですかね」と言っていました。これは、打者として年間200本安打を目標としているということです。その数字に辿り着いたことは感慨深いものがあります。

## 坂下南小での皆様との出会いに感謝



私は、南小の子ども達に出会い、そして保護者の皆様と出いました。その出会いこそが、「子ども達の様子を伝えたい」、「自分の思いを届けたい」という幸福のエネルギーとなって、学校だよりを発行してきました。素直な子ども達と素敵な保護者の皆様との出会いに感謝しています。